

## 【巻頭言】

## 年頭にあたって

京都医療科学大学学友会 会長 埜藤 眞純

新年あけましておめでとうございます。

激動の年を乗り越え、新しい年を健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。会員各位のご多幸とご健勝をお祈り申し上げますと共に、学友会の更なる飛躍の年となりますことを切に祈念いたします。

昨年を振り返ってみますと、日本人4名がノーベル賞を受賞するという嬉しいニュースもありましたが、景気後退、金融危機、政治・経済の混迷、医療制度の崩壊、自然大災害、食の安全不信、理不尽な残酷事件など挙げればきりが無い暗いニュースの多かった年でした。

世の中、いつの時代も上がり下がりを繰り返しながら推移して行くものです。ただ人の心の常として、良い時も悪い時もそれが続くように思いがちです。良い時にはこんな事が何時までも続くはずがないと心を引き締め、悪い時にはそのうち必ず良くなると前向きな希望を持ちたいものです。今年が丑年です。牛の歩みではありませんが、のろくとも、着実に向上への第一歩を踏み出す年としたいものです。

昨年11月、「2008年版会員名簿」が発行されました。それによると正会員数は3,232名で、その内短大卒正会員は1,322名で40%を占めるまでになりました。

学生準会員は307名で、その内短大3年生は125名となっています。

私たちは、学友会の設立理念に則り先輩諸氏が築き上げてきた学友会活動を大切にしていかなければなりません。しかし一方では、時代の流れに対応し変化していくことも必要です。本年も懸案として若い世代会員の積極的な参加が得られる学友会づくりに尚一層の努力をする所存です。

昨年は学友会ホームページの充実を図りましたが、これを機に会員相互の交流、親睦を深めることに活用していただき、学友会の更なる発展に役立てて欲しいと願っています。特に、情報の相互伝達という面から一歩進んだ活動につながることを期待しています。

学友会の活動は、支部の活動が基盤であることから支部との連携を密にし、支部と本部とのパイプを太くしていく取り組みも大切だと考えています。会長として支部総会には何を差し置いても参加させていただき、皆様から忌憚のない意見をお伺いしたいと思っています。

島津学園「京都医療科学大学」も開学から3年を迎え、大学の更なる発展を見据えて次のような事業計画が掲げられています。

①少子化、大学全入時代により受験者獲得競争はさらに厳しくなることが予想される。受験者を確保し、卒業生の質を保証し、社会の信頼に応えられる魅力ある大学づくりを目指す。

②新生4年制大学にふさわしい学科の増設(定員40名規模)について調査・検討を継続して行う。

③短期大学の閉校及び大学京都医療科学大学の4年次完整の記念事業として、学園創設85

周年(2012年)に記念誌を発行するため編纂の準備に入る。・・・等です。

学友会として以上の事業に対し全面協力したいと考えています。会員各位の暖かなご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、「2009年学友会総会」が東海支部のお世話により2009年6月13日(土)岐阜県飛騨 高山市で開催されます。北アルプス連峰の素晴らしい眺望と奥飛騨温泉郷の名湯・秘湯が楽しめます。多くの皆様の参加を心待ちにしています。是非、今から出席の準備をお願いいたします。

以上

---

\* 通巻 190 号 2009 年 1 月 10 日発行(H20-No.4)より